

JA自己改革推進レポート（JA鳥取いなば）9月号

（1）はとむぎ茶リニューアル

JA鳥取いなばは、地元産ハトムギを100%使った「とつとりのはとむぎ茶」の味とペットボトルのサイズをリニューアルし、8月26日に販売をスタートした。

今回のリニューアルでは、はま茶の配合を20%から9%に変え、香ばしくてすっきりした味に仕上げた。ペットボトルも、500mlから350mlに変えて冷温対応にした。飲みきりサイズにし、レジャーだけでなく、会議や研修会などに活用しやすくなっている。



（2）関西市場職員がらっきょう植付け作業体験

関西鳥取会は8月23日、関西地方の卸売市場の若手担当者など13人を対象に、福部町で研修会を開き、ラッキョウの植付けを体験した。参加者は、作条機で作った植付け溝を崩さないように横一列に並び、ラッキョウの種球を1球ずつ植え、3畝のほ場を約1時間かけて植付けた。参加者は「産地で体験する事で、農産物への親しみや知識がさらに深まる。販売時の情報提供などに活かせるので、いい経験になりました」と話した。



（3）国府町産ブドウを「万葉のしずく」と命名

JA鳥取いなば国府支店果実部は8月19日、鳥取県庁を訪れ、平井伸治知事に国府町産ブドウ「万葉のしずく」を贈り、現在の生産状況や販売の取り組みを報告した。同生産部は、新元号「令和」の出典「万葉集」ゆかりの地である国府町で栽培されたブドウを「万葉のしずく」と命名。来年度には、「巨峰」「ピオーネ」「シャインマスカット」に“万葉のしずく”ステッカーを貼るなどして販売する計画。知名度向上、販売強化を図り、産地活性化を狙う。



(4) いなば畜産共進会開催

J A鳥取いなばは8月22日、第48回いなば畜産共進会を同J A鳥取広域カントリーエレベーターで開いた。グランドチャンピオンには、若桜町の津村将彦さんが出品した「はくほうしょう」号が輝き、同大会6連覇を達成した。同J Aでは、繁殖雌牛の増頭に力を入れ、2017年度の712頭から2年間で936頭に増えている。その結果、今大会では過去最多の26頭が出品された。



(5) 野菜の日（8月31日）に試食販売実施

J A鳥取いなばとJ A全農とっとりは「野菜の日」の8月31日に、トスク本店で試食販売会を行った。地元野菜の旬の美味しさをアピールし、「野菜を食べよう！」と呼び掛けた。会場では、同J Aが生産販売に取り組む白ネギ、アスパラガス、千両ナス「大黒なす美」、広留野ダイコンを販売。同J A大黒なす美生産部の生産者も参加し、買い物客に試食を勧め、食べ方や新鮮な野菜の見分け方などを伝えた。

